

岩手県内の原木林Cs濃度分布の推移 (H24年～R5年)

1 はじめに

シイタケの原木栽培では、放射性セシウム濃度(以後、Cs濃度と記す)が指標値(50Bq/kg)以下の原木を使う必要がありますが、原木のCs濃度は生産地や地域で異なるため(成果速報No.359)、原木林を選定する際には原木のCs濃度の調査(原木林検査)が行われています。原木林の効率的な選定には、Cs濃度を地域レベルでおおまかに把握しておくことが有効であり、林業技術センターではこれまでに県内の原木林Cs濃度分布図を作成しました(林業技術情報No.105)。今回は、濃度分布の推移をお知らせします。

2 調査方法

県内の現地機関や林業技術センターで調査した原木のCs濃度と位置情報のうち、H24年～H27年(前期、583点)とR2年～R5年(後期、374点)の結果を用いて、分布図を作成しました(方法は林業技術情報No.105参照)。ただし、分布図は限られた調査地点

のデータを基に作成したものであり、調査が行われていない場所のCs濃度は推定値であるため、色の薄い地域が必ずしも安全(原木林のCs濃度が低い)とは言えない点に注意が必要です。

3 結果

前期において、原木林のCs濃度は北部より南部で高い(色が濃い)傾向を示すとともに、沿岸地方では、内陸地方よりも北の方までCs濃度の高い原木林が分布しました(下図左)。また、内陸地方、沿岸地方を問わず、Cs濃度が低い地域にも、Cs濃度が高い調査地が混在しました。こうした傾向は後期(下図右)も同様でしたが、後期では前期に比べて色の薄い地域が広がりました。

4 おわりに

分布図の精度を向上させることにより、原木林の選定の一助となることが期待されるため、引き続きデータの収集と解析を行う予定です。

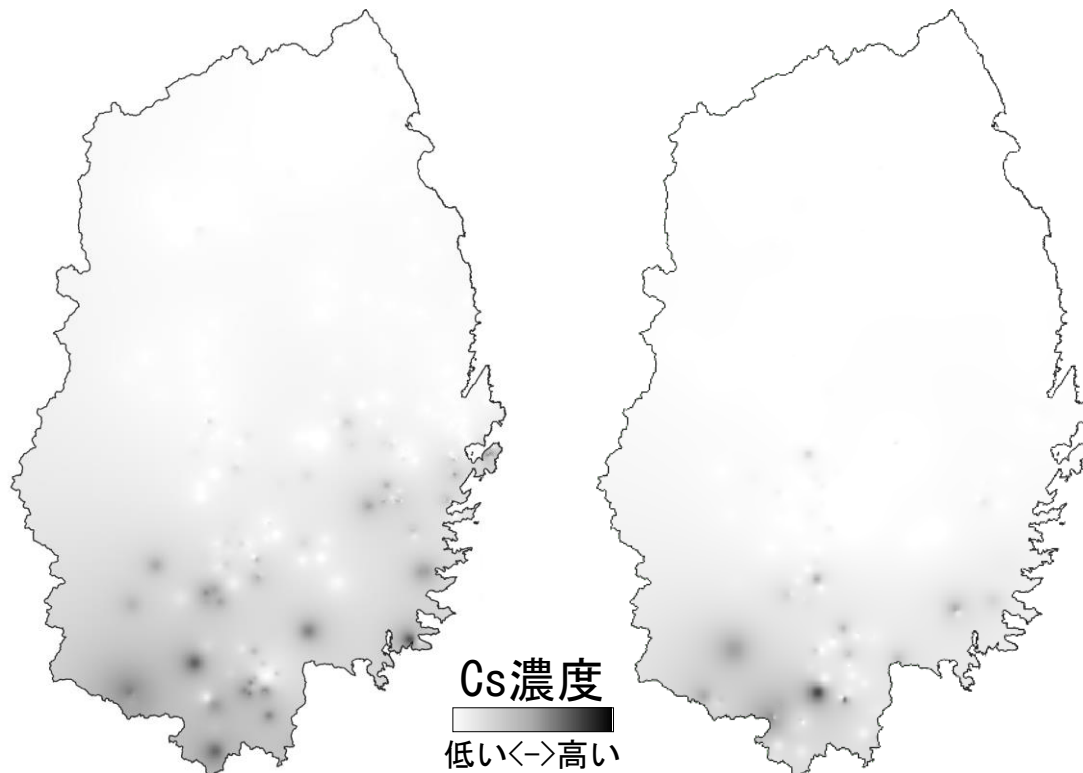


図 原木林のCs濃度の分布 (左: H24年～H27年; 右: R2年～R5年)

(担当 研究部 上席専門研究員 成松 眞樹)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/>

T E L 019-697-1536
F A X 019-697-1410